事例から学ぶ、CMSを利用した
多言語ウェブサイト構築・運用のポイント

株式会社COLSIS（コルシス）
桐田 寛之

自己紹介

- 桐田寛之（きりたひろゆき）
- 株式会社COLSIS 代表取締役
- CMSベンダーから独立して、創業5年目
- Movable Type歴は13年目
- 泥臭い系PMとして日々頑張っています

株式会社COLSISについて

『つなげて、つくりあげる』をコンセプトに
WebサイトやWebシステムを作っています。

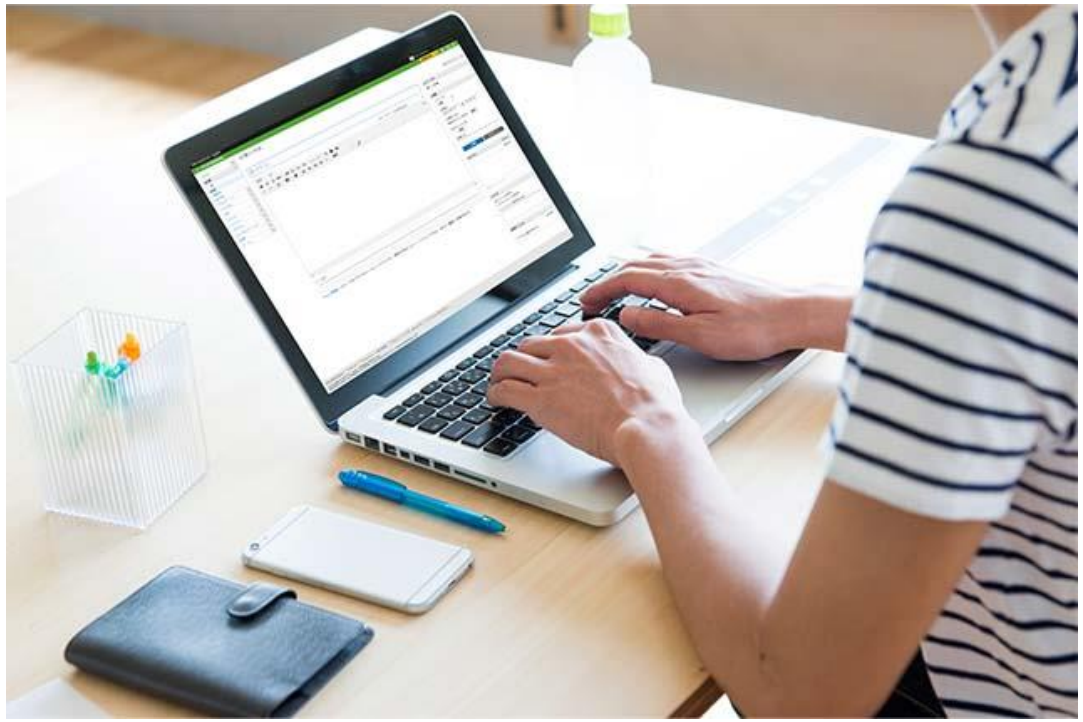
オウンドメディア
構築・運用

Movable Type
ソリューション

海外向けシステム
ソリューション

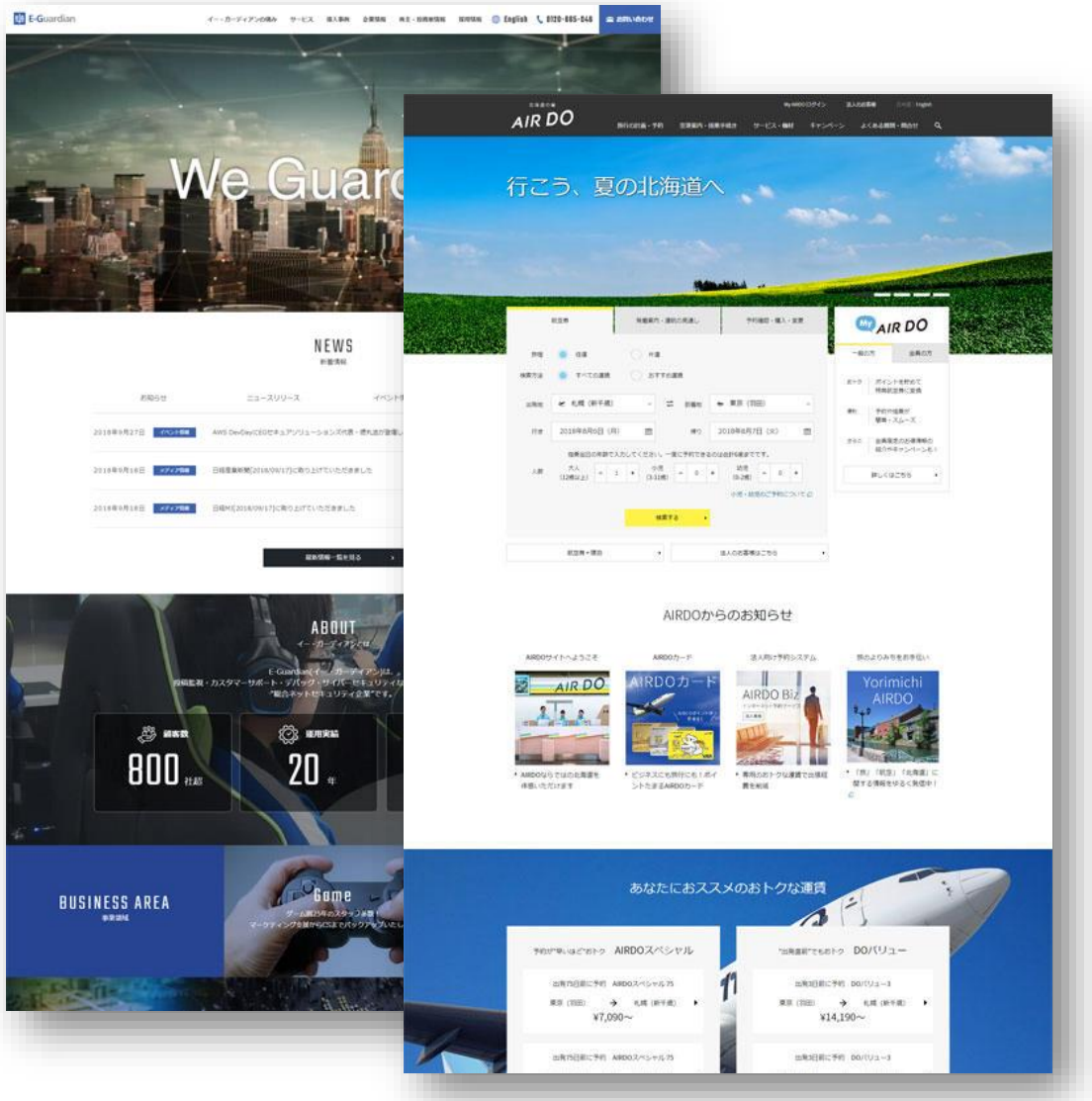
COLSISのMovable Typeの取り組み

Movable Type ソリューション



- Movable Typeの技術的なお困りごとを解決。
- 大規模なMTバージョンアップ、再構築負荷軽減、プラグインによるカスタマイズ、メンテナンスしていた会社が居なくなった･･･etc

Movable Typeを使ったウェブサイトの構築



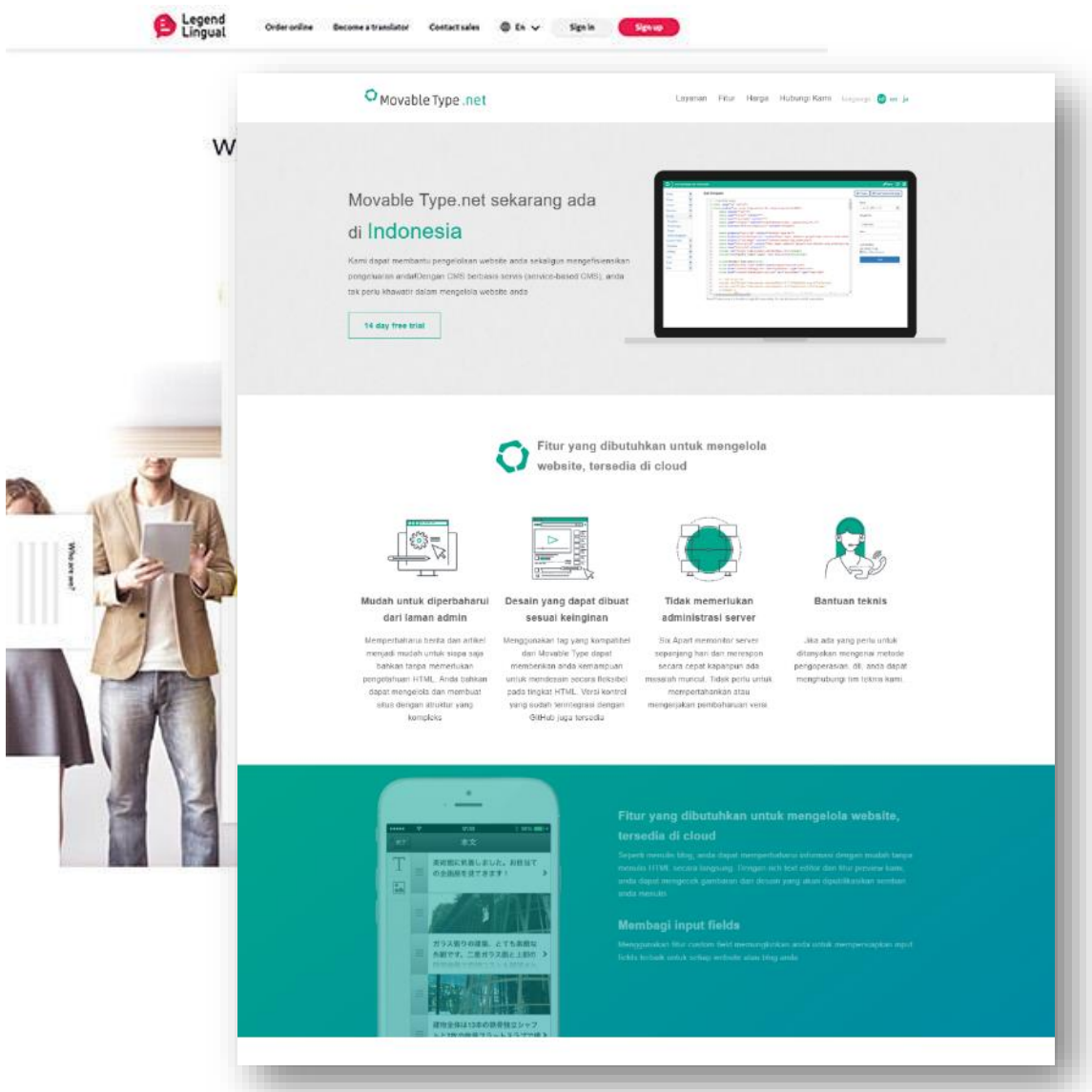
- ウェブサイトリニューアル＋Movable Typeの導入
- 大・中規模を中心にさまざまな企業に導入をしています。
- このあたりの話は後ほどご説明していきます。

3rd Focus

- 著名プラグイン開発者のプラグインを、**まとめて**サポート・カスタマイズを受けるソフトウェアレーベル

- 最近では自社での開発で以下のプラグインもリリース。
  多言語サイト向けプラグイン「MT Translator」
  エンタープライズ向けパック「Movable Type 7 SmartSync Pack」

海外向けシステムソリューション



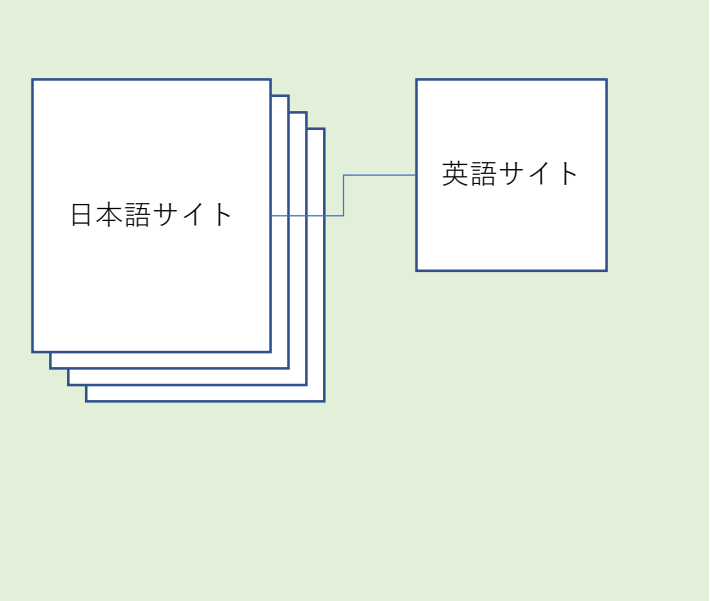
東南アジアを中心として、日系企業を中心にシステム開発

MovableType.netのインドネシアでの販売・構築サポート

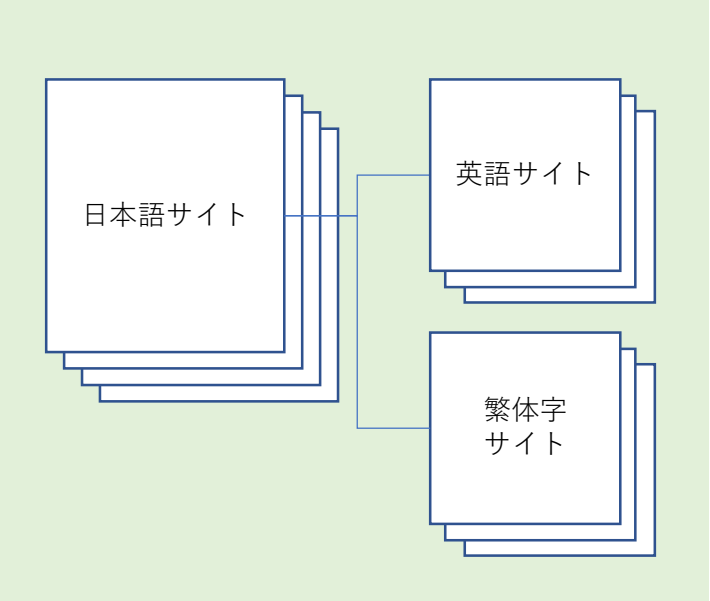
ということで本題・・・

事例から学ぶ、CMSを利用した多言語ウェブサイト構築・運用のポイント

多言語サイトの重要性が増している



これまで：少量コンテンツ・英語のみ



最近：コンテンツ量が増大・多言語

インバウンド需要が上がり、また2020に向けた動きで、多言語サイトの位置づけが更に強まっている。

多言語の手法も多様化している

エンタープライズ系CMSや
WOVN.ioをはじめとした様々な多言
語化・翻訳方法

WordPress
Drupal™
ADOBE EXPERIENCE MANAGER
HeartCore
WOVN.io
ジャパリンガル
gengo

他と比較して劣っている部分もあるが、
Movable Typeのメリットかなりある

Movable Type

- 管理画面が英語含めた多言語
- 静的なのでインフラ面での利点が高い
- テンプレートの自由度が高く、扱えるベンダーも多い

多言語サイトの構築・運用のポイント

サイト設計面

多言語サイトのサイト設計方法を知って、どのように構築するかをあらかじめ決めておく必要がある。

プロジェクト推進面

多言語サイトの制作にあたってのプロジェクトフローを整備する必要がある。

今回は事例をまじえてそれぞれ紹介をしていきます。

Movable Typeでの多言語のサイト設計方法について

Movable Typeのサイト構築方法

Movable Typeを使った構築手法も様々ありますが、
代表的なものをいくつか種別わけしてみました。

①1つのサイトで共通管理

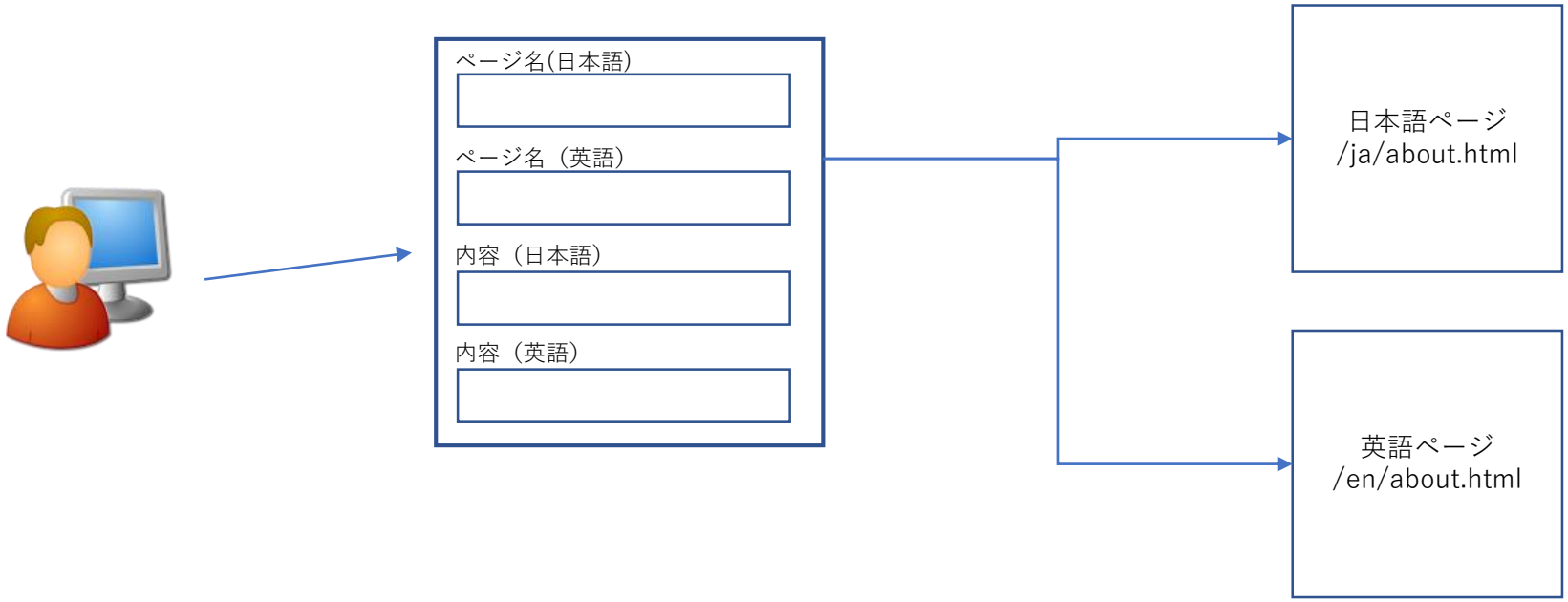
②サイトをそれぞれ別管理

③ハイブリッド型

Patern1

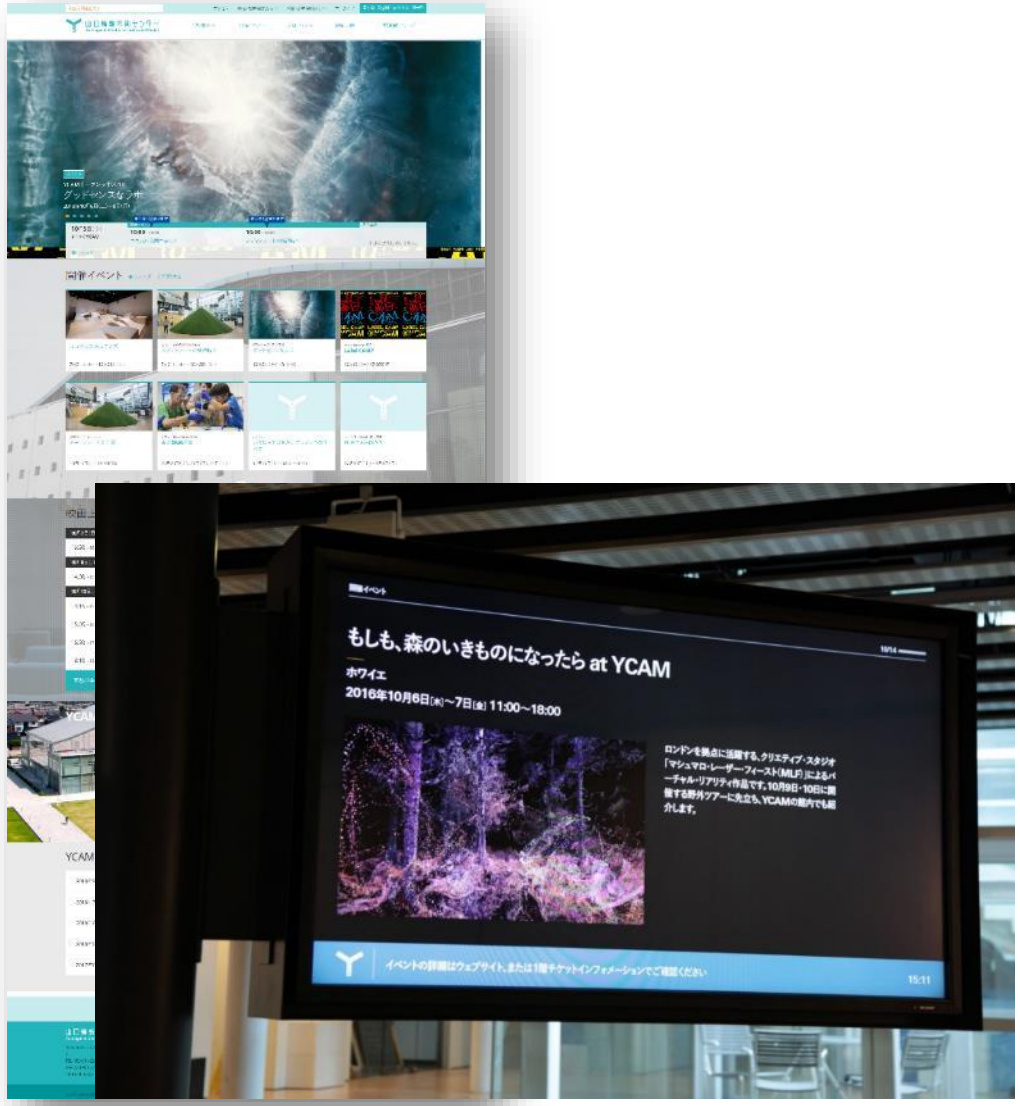
1つのサイトで共通管理

1つのサイトで共通管理



1つのサイトの中で全ての多言語の共通管理を行なう
編集画面についても言語ごとの入力画面を設けるようにする。

事例：山口情報芸術センター(YCAM)

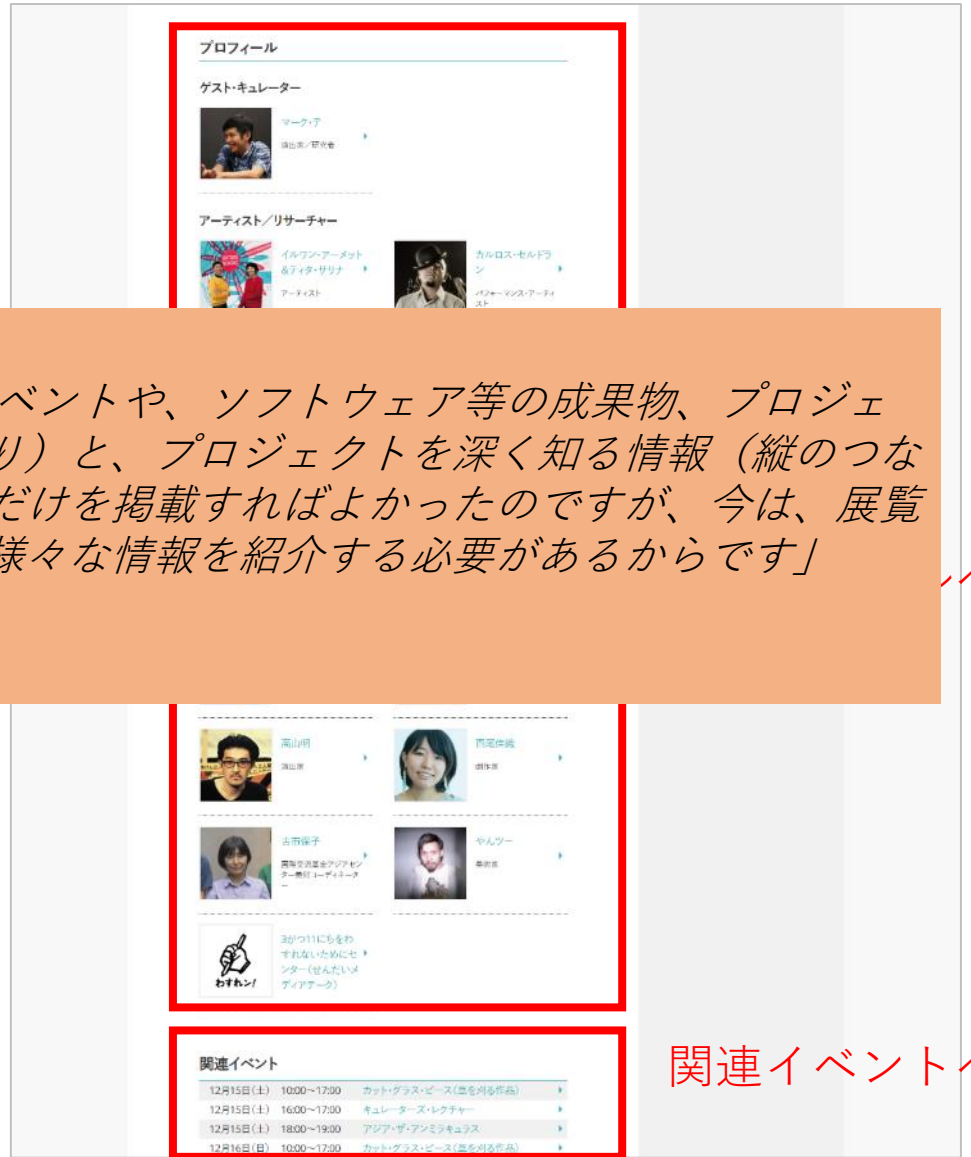


山口情報芸術センター 通称YCAM（ワイカム）は、山口県山口市にあるアートセンター。

イベント情報・アーティスト・プロジェクトなど様々な情報をCMSで管理

ウェブサイトだけではなく、JSONデータを連携してデジタルサイネージなども開発。

様々なコンテンツを連携



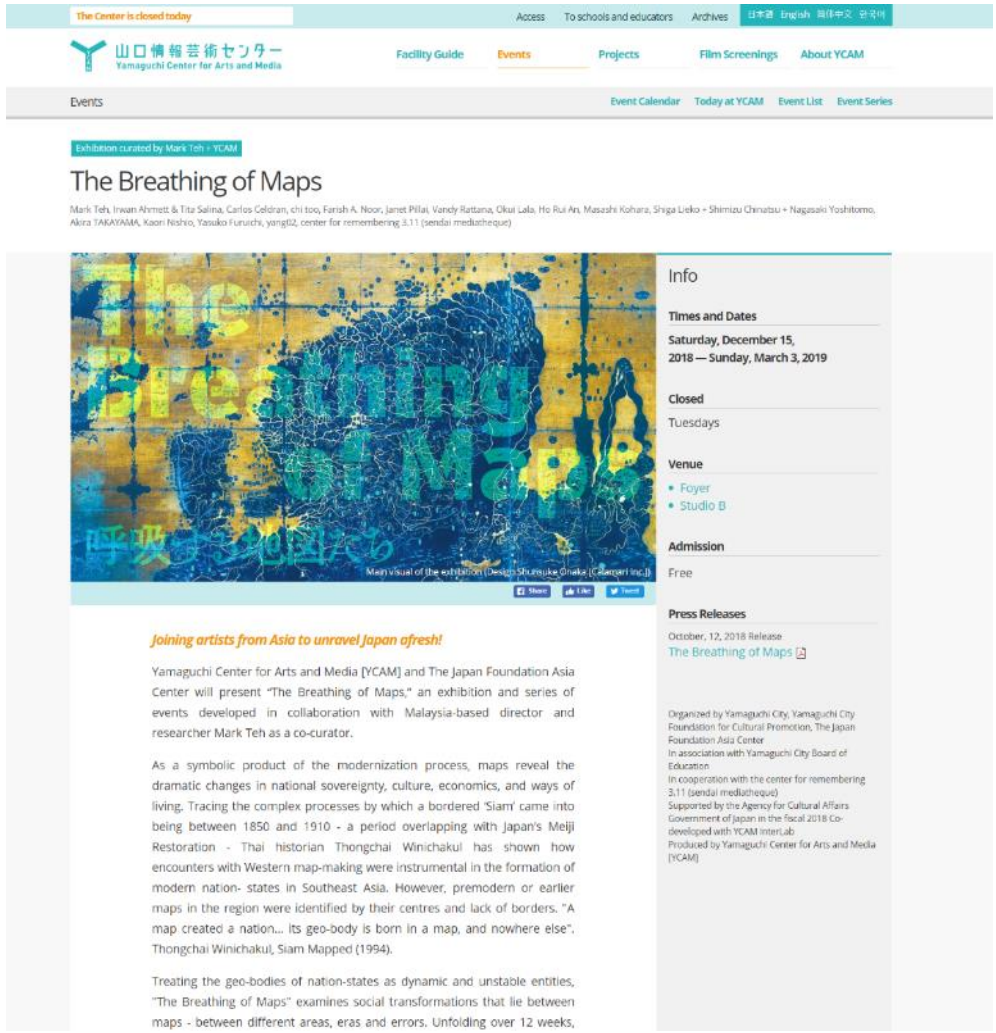
「例えば、先述した『RAM』のページでは、派生するイベントや、ソフトウェア等の成果物、プロジェクトチームの紹介など、関連性のある情報（横のつながり）と、プロジェクトを深く知る情報（縦のつながり）を可視化しています。かつては展覧会単体の情報だけを掲載すればよかったのですが、今は、展覧会の背景にある研究開発プロジェクトといった派生する様々な情報を紹介する必要があるからです」（YCAM 渡邉さん）

関連イベントへ

管理画面で各情報を連携

MTAppjQueryを利用して、各情報と連携。
（MovableType7ではコンテンツタイプでも可能に）

ほぼ同じレベルの多言語化



日・英・中・韓でほぼ同じレベルの多言語化

多言語も1つの編集画面で

日英中韓が1つの編集画面で編集できるように
独自プラグインを使った定型化されたワードを使い回し

①での利点・課題点

利点

- サイト編集画面が1枚のため、対訳を個別で確認しやすい。
- カテゴリなどの種別や画像などをついては共通で選択できるようにする。

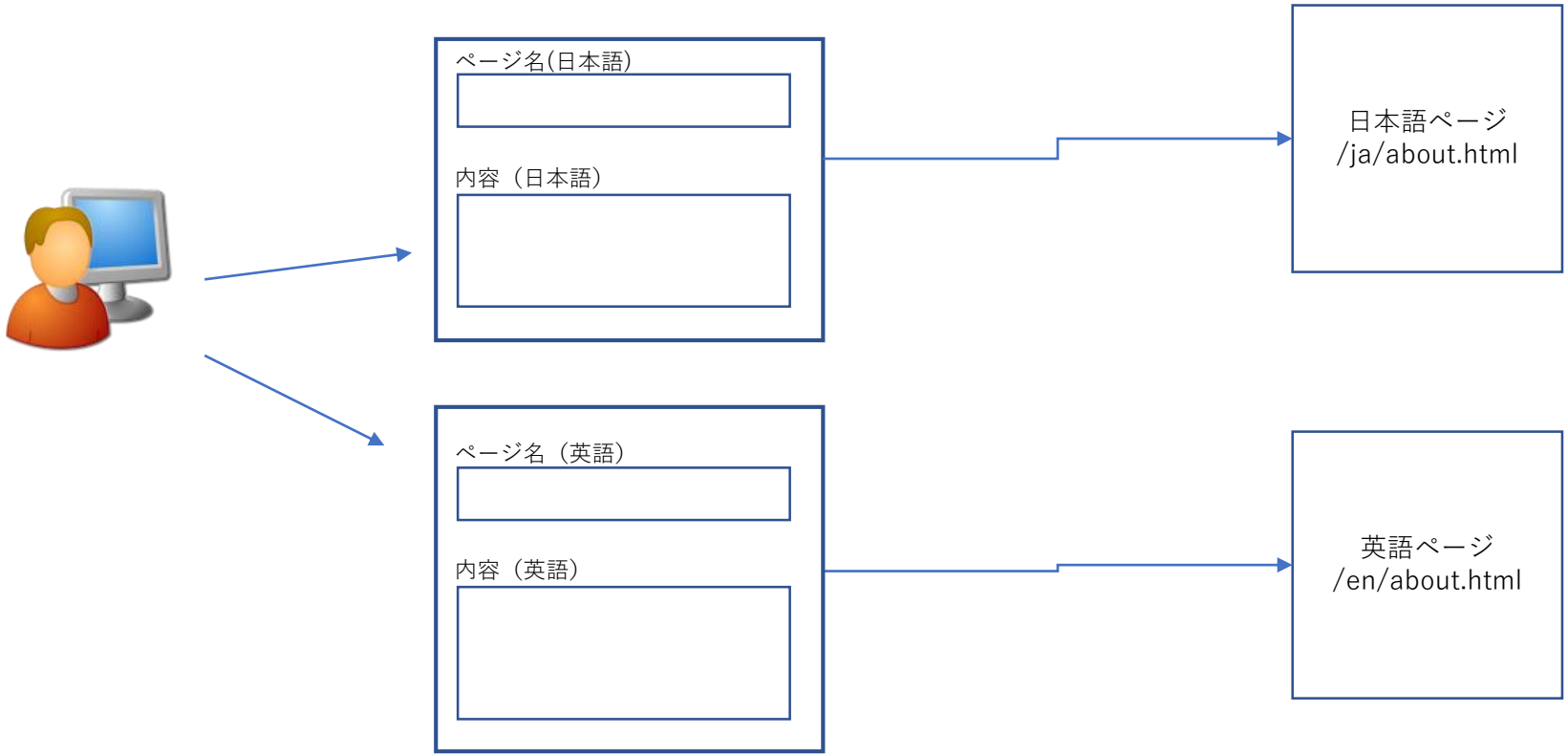
課題点

- サイト毎に構造を分けようとするとテンプレートなどが複雑になる。
- フィールドが増えると再構築負荷が重くなってしまう

Patern2

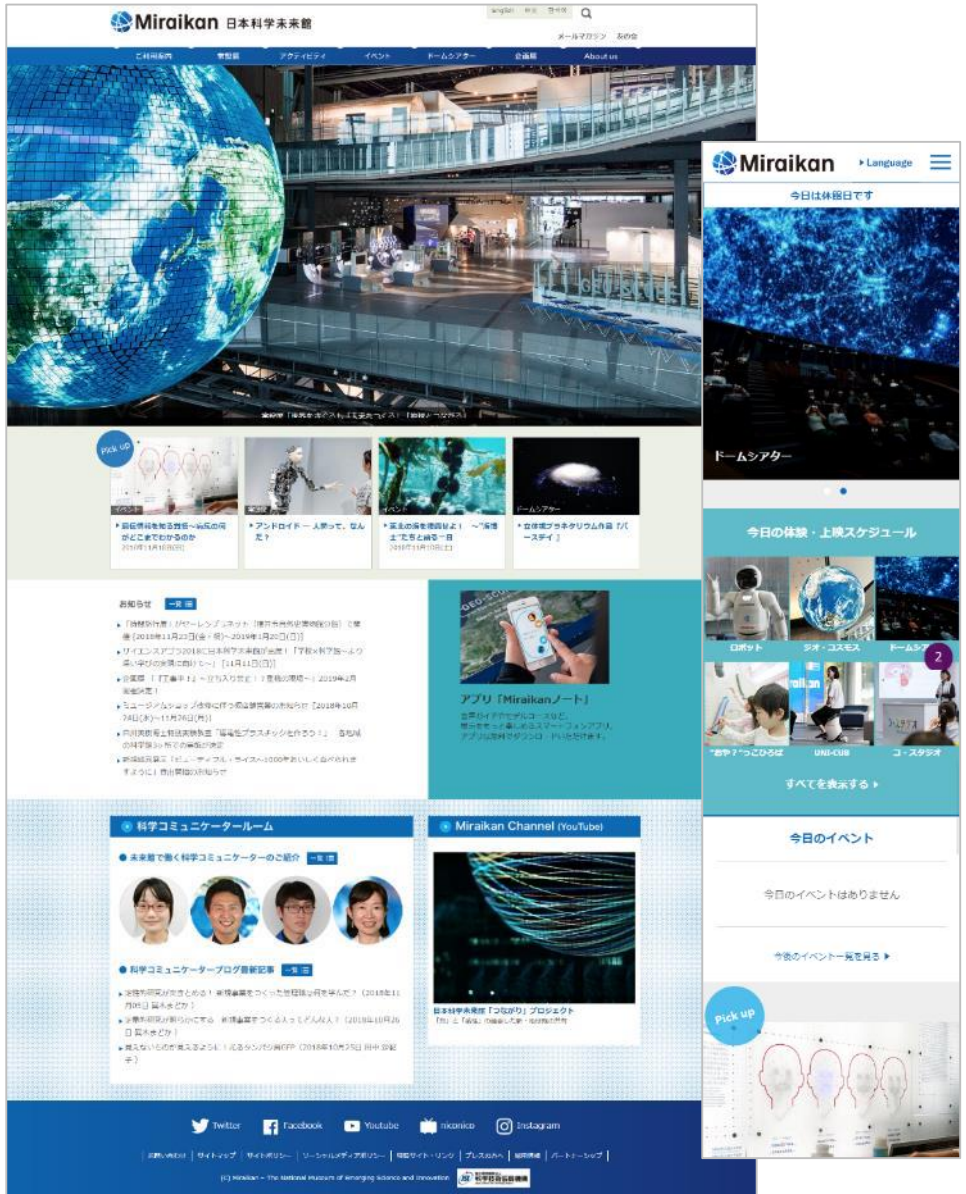
サイトそれぞれで別管理

サイトそれぞれで別管理



翻訳元サイト・翻訳先サイトを別々のサイトで管理する
編集画面についても独立して、構築する。

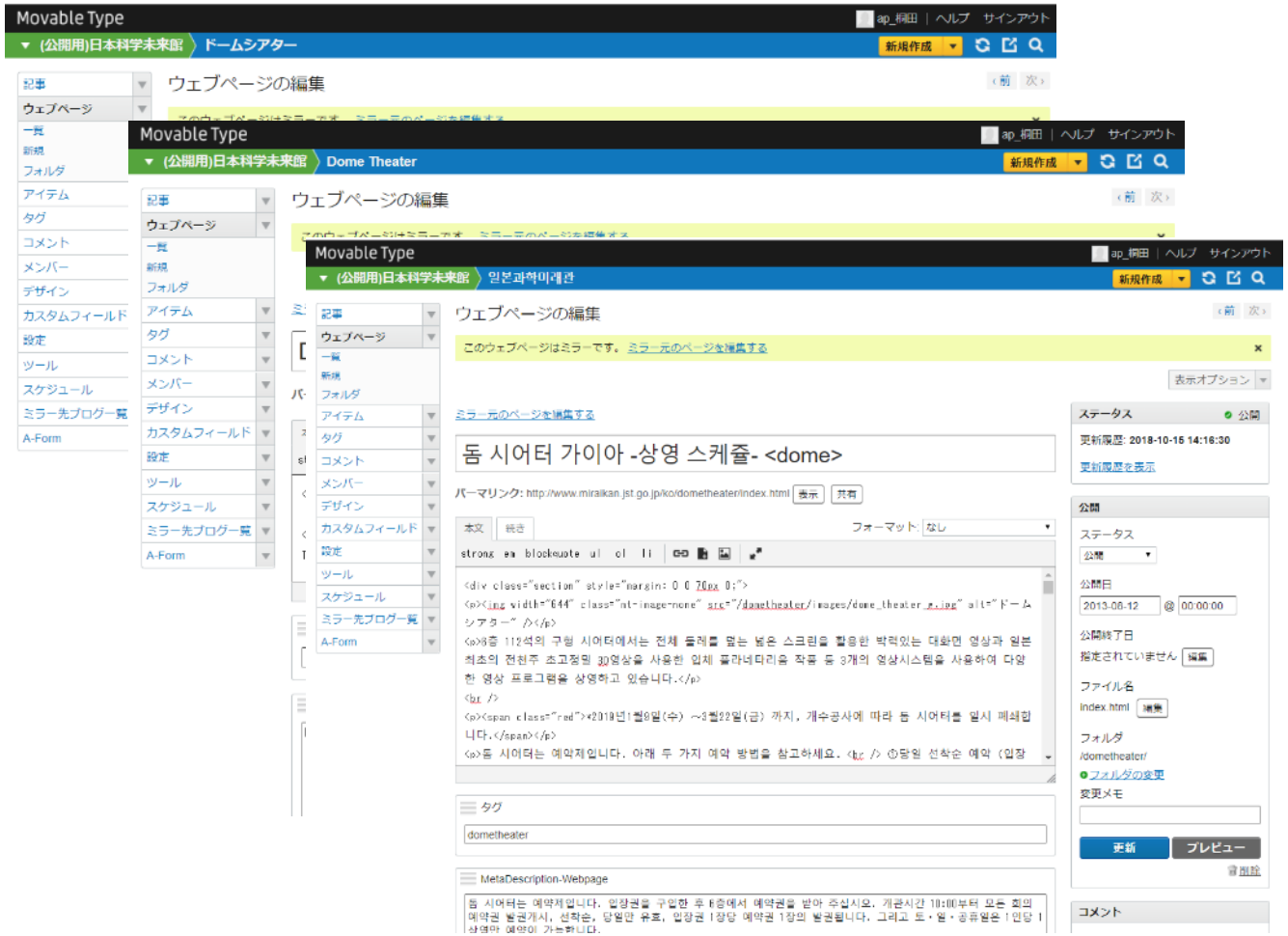
事例：日本科学未来館様



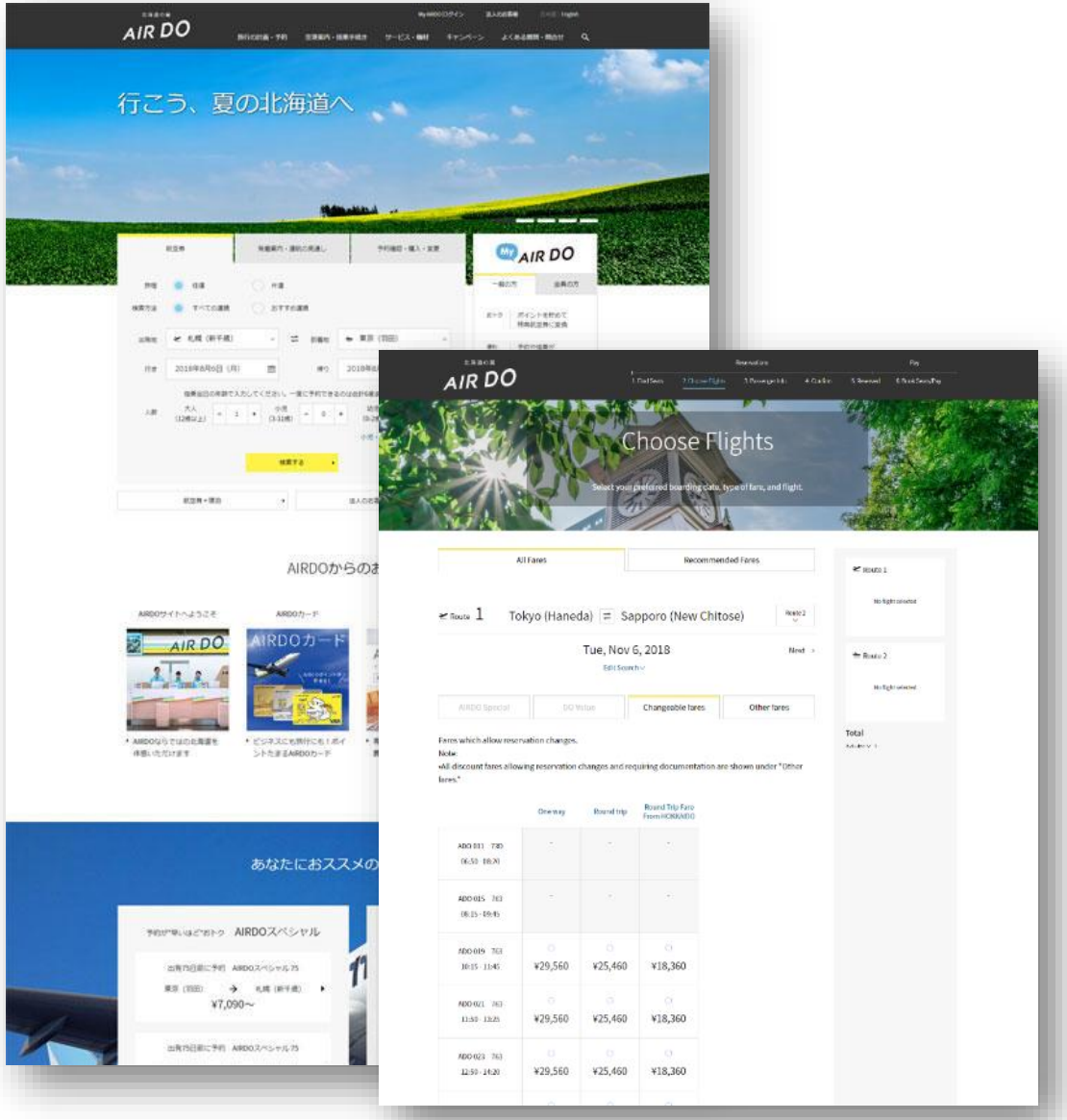
日本科学未来館は、東京お台場にある先進の科学技術を扱っている科学館。

現在進行形の科学技術の最先端を展示する常設展示に加え、企画展も開催。

言語ごとにサイトを分ける



事例：株式会社AIRDO様

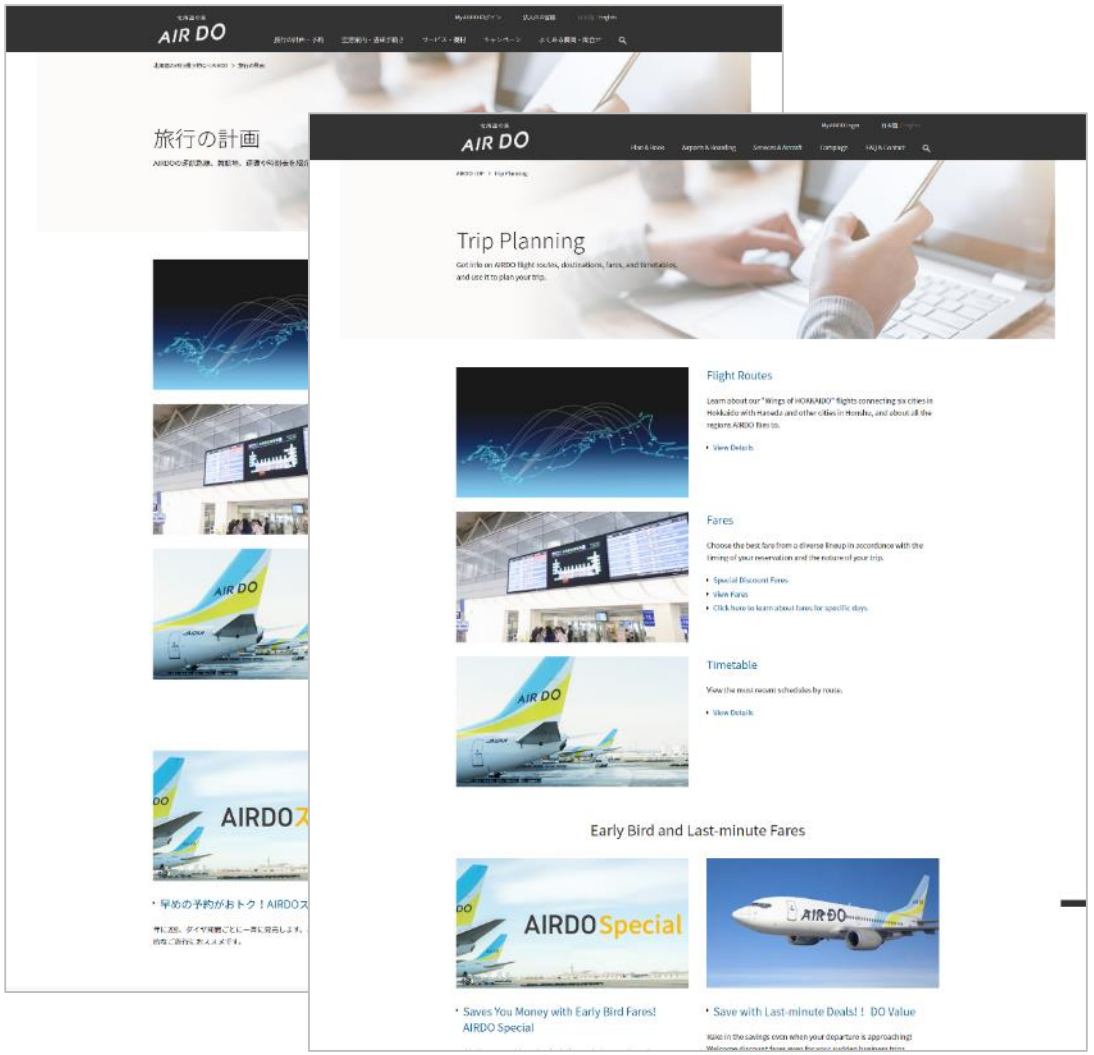


北海道を中心とした航空会社。

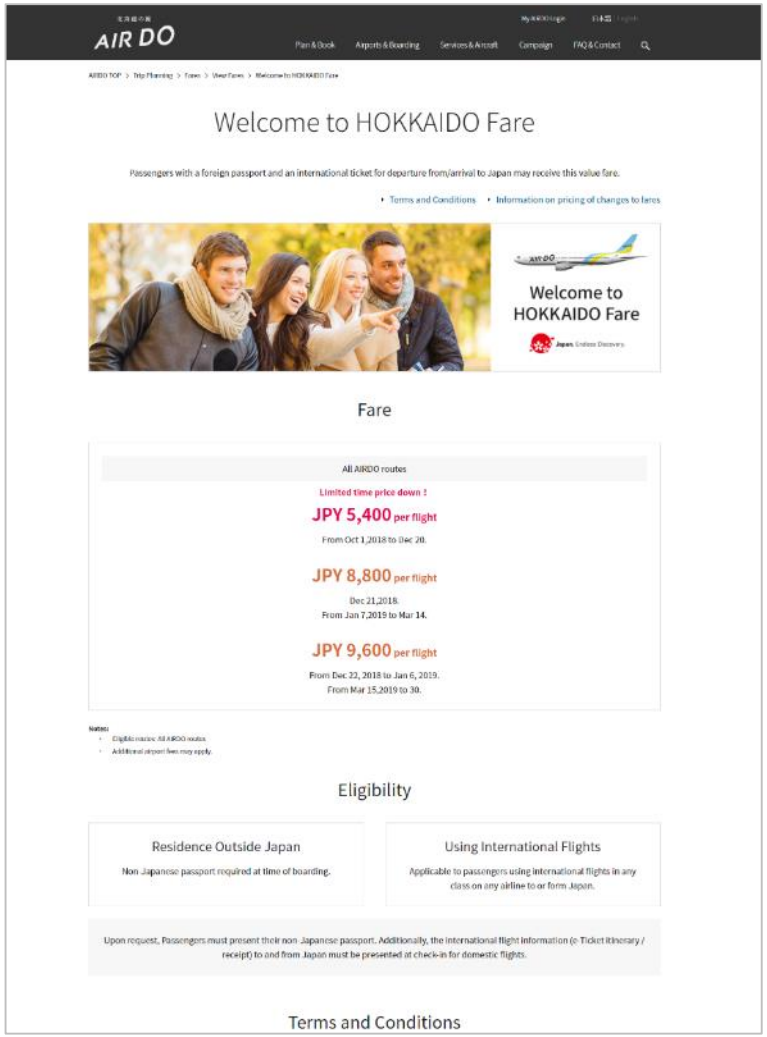
2017年ウェブサイト・予解約を大幅にリニューアル。（コルシスではMovable Typeの構築をサポート）

リニューアルに合わせて、ウェブサイトだけではなく、予約サイトについても英語化を実現。

事例：株式会社AIRDO様



予解約に必要なページについては、全て英語化。



法人情報、採用情報、運航実績などは除外
英語独自のページなども作成。

②での利点・課題点

利点

- 各言語ごとにサイト構造をそれぞれ分けることができる。
- 再構築も言語サイトごとによるので①よりも再構築負荷が高くない。

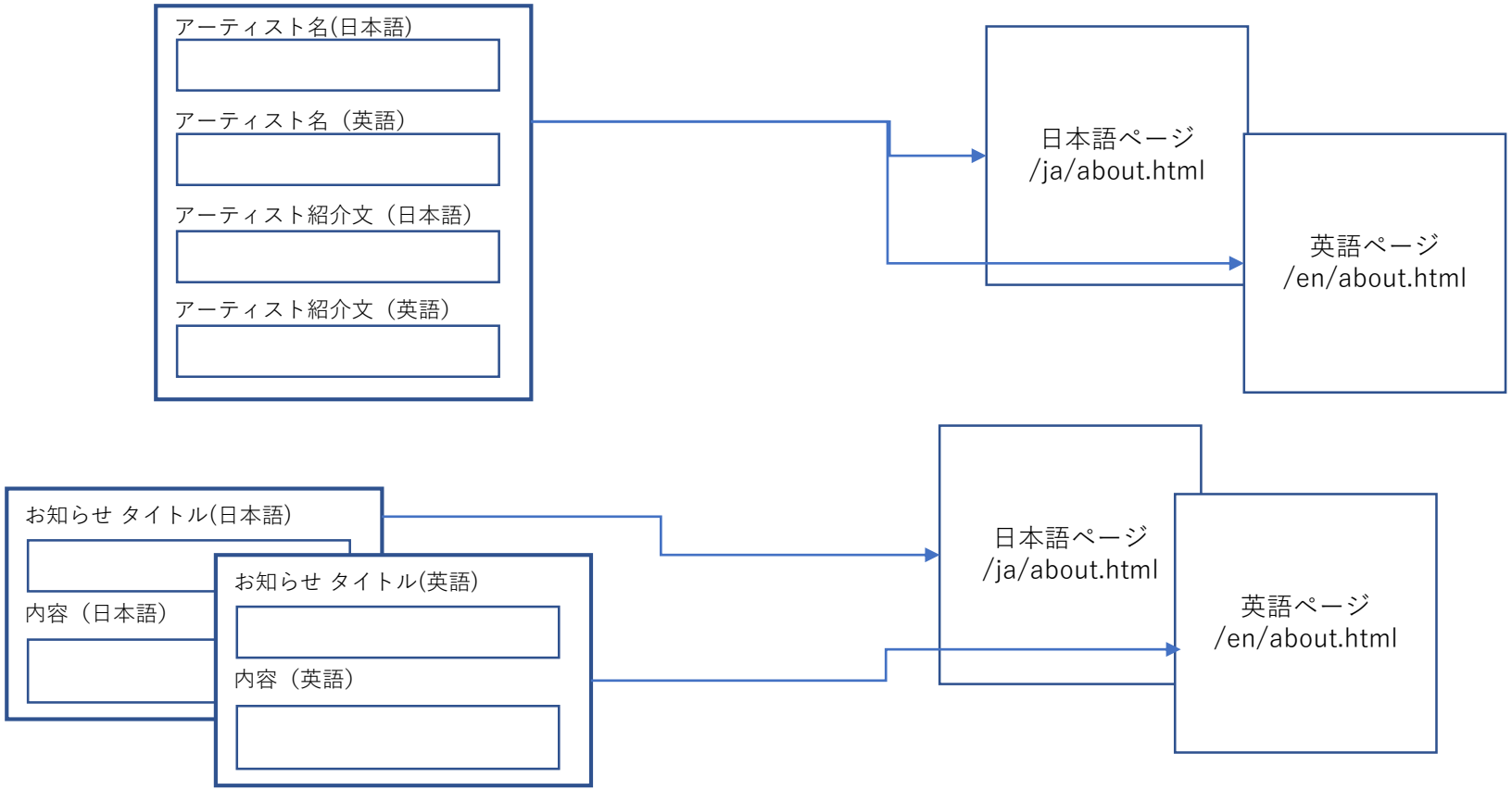
課題点

- 対訳で確認をしたり、原文を修正するとそれに対応させる翻訳を行なうために別の編集画面になるので翻訳処理は煩雑になる。
- 共通での種別分け、共通の画像などを使い回すことが難しい。

Patern3

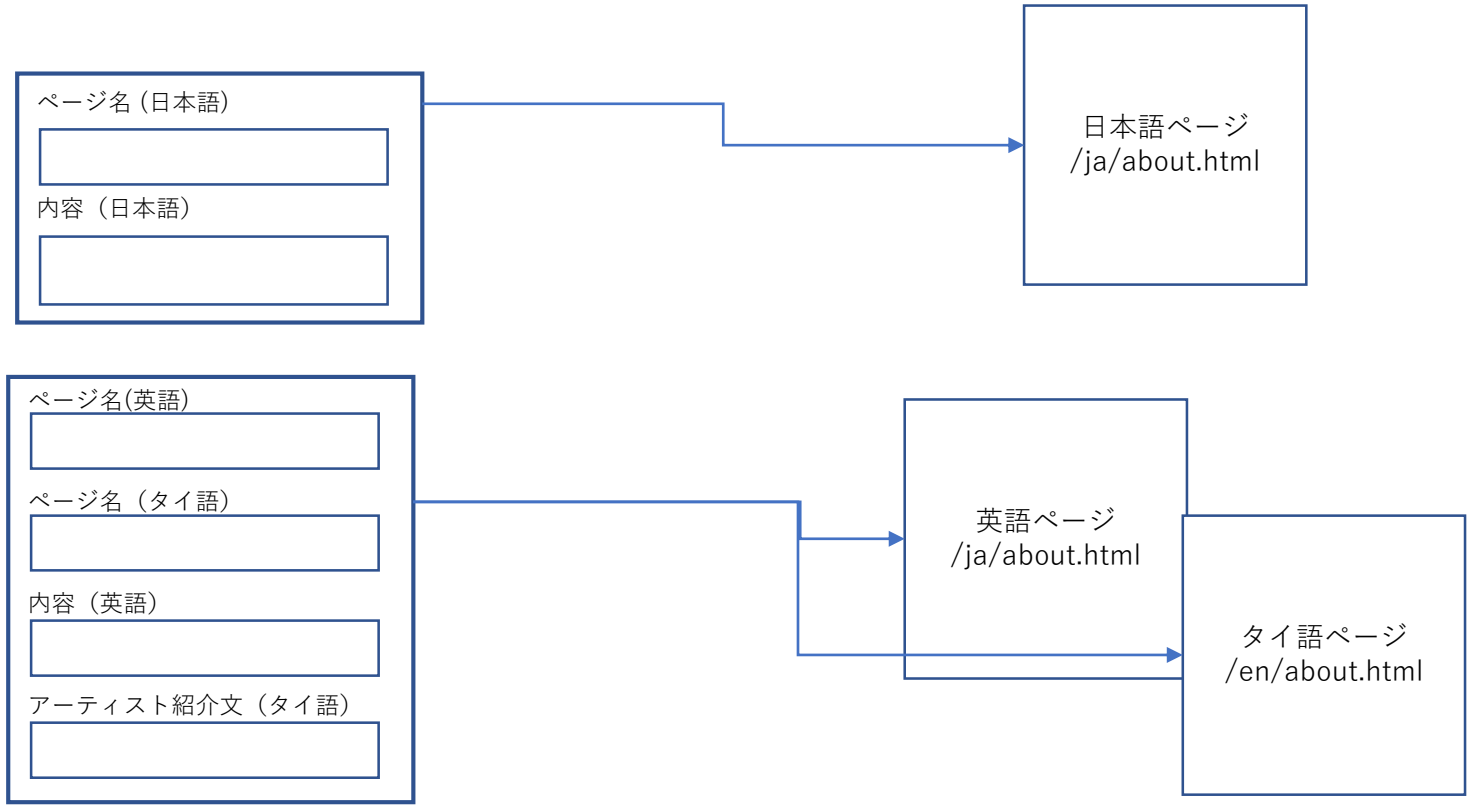
ハイブリッド型の構築

ハイブリッド型の構築(1)



いわゆるデータ系は多言語で共通で持たせる。コンテンツ系はそれぞれサイトで独立して持たせるパターン。

ハイブリッド型の構築(1)



日本語は独立して、他の言語は英語をベースに1つの編集画面でまとめてしまうケース。

③での利点・課題点

利点

- ①と②のそれぞれの良さを活かした構築を行なうことができる。

課題点

- 翻訳や運用する側が、複数の翻訳方法があるので、操作方法が異なるため混同する可能性がある
- サイトの構築が複雑になりがちなので、工数が膨らみやすい。

それぞれの特性にあった構築手法を

①1つのサイトで共通管理

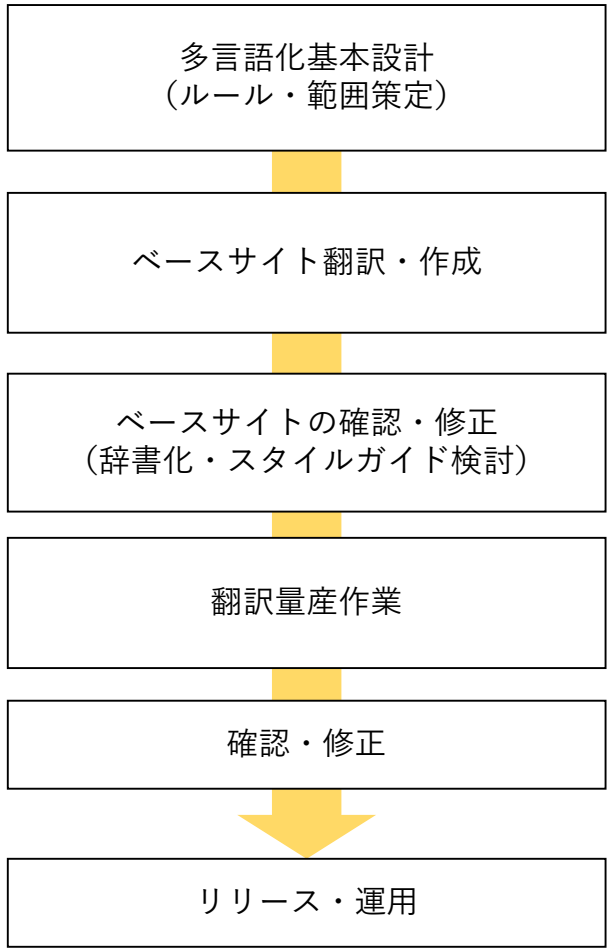
②サイトをそれぞれ別管理

③ハイブリッド型

多言語サイトの方向性（コンテンツ量や運用など）を考慮して、正しく構築方法を選択することが大事。

多言語サイトのプロジェクト推進方法について

コルシスでの多言語プロジェクトフロー



多言語にあたっての範囲や、翻訳のあたってのルールなどを策定する。

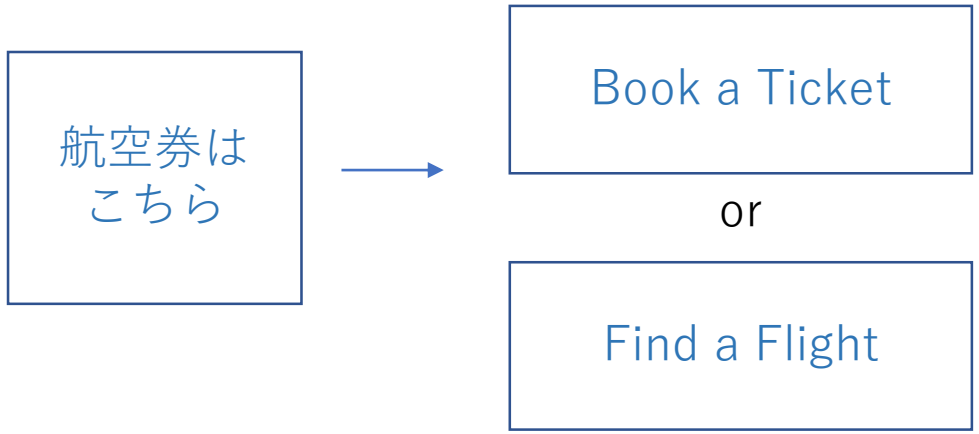
いきなり全てのページではなく、ユーザーにとって重要なページを抜粋して、翻訳を行ない、実際にページを制作する。

ベースサイトに対して、クライアント側と確認を行なって、認識のすりあわせを行なう。またベースサイトを元に辞書・スタイルガイドを作成する。

ベースサイトの翻訳内容が固まった後に翻訳量産作業を行なっていく。

次ページ以降にプロジェクト推進面のポイントをまとめました

多言語基本設計について



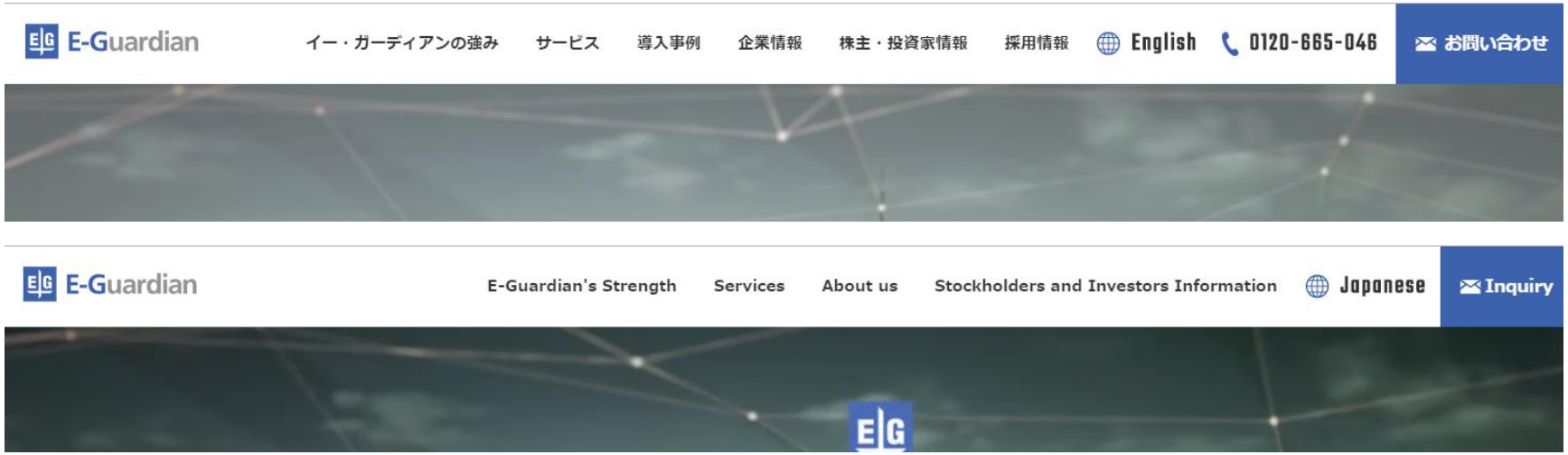
同じ日本語⇒英語でも解釈やターゲット（居住地）などによって、翻訳内容が異なってくる。

翻訳会社側に基本はお任せするとはいえ、同業種の参考サイトなどは事前に決めておくことでワードのチョイスを方針を決める。

また以前作った多言語のパンフレットや資料などがあれば、それもなるだけ事前に提供いただく。

また最終的なステークホルダーをあらかじめ決めておく必要がある。

ベースサイトの翻訳について



翻訳を行なった上で実際システムに組み込む前に事前にHTMLに当てはめることが大切。

翻訳文章についても、もし複数の選択や懸念事項があればベースサイトは丁寧に実施することで量産化のスピードが結果的に速くなる。

ベースサイトが終わったら、辞書ファイルやスタイルガイドを作成する。

その他の気をつけるべきコト

解釈が異なることが多くなりがちなのはキャッチコピー。場合によっては別管理にするなどした方が良い

中国語・タイ語・韓国語などは利用するフォントが異なっているので事前にベースサイト時に確認をする

タイ語なども辞書などで問題がないが、アルファベットを使うルール等を精査する必要あり。

多言語サイト効率化プラグイン
「MT Translatorについて」

多言語サイトを制作する上での悩み

Excelで翻訳文章を提供されたけど流し込みが大変

翻訳元と翻訳先の文章をプレビューしたい

日本語が一部残っているのを探せない。

MT Translatorについて

多言語サイトを効率よく進めるためのプラグイン
「MT Translator」

・ウェブサイトの多言語用の複製
・GoogleTranslator・Excelでの一括翻訳
・対訳プレビュー
・日本語抽出機能
・新規記事ページの複製機能

MT Translatorでのサイト制作の流れ

翻訳元の
ウェブサイトを複製

ウェブサイト複製機能を利用してコピーします。複製するブログは選択できます。

共通テンプレートを
修正

複製先のウェブサイトの共通テンプレートを修正して多言語に修正します。

※この作業はプラグインではなく制作会社にて行ないます。

Google翻訳かExcelで
一括翻訳

翻訳は対訳を記載したExcelファイルか、GoogleTranslateを選択し、一括翻訳することができます。

※GoogleTranslatorAPIの利用には別途費用がかかります。

対訳プレビューで
確認・編集

翻訳元と翻訳先の記事・ページを対訳プレビューで確認することができます。

MT Translatorが有益な範囲

①1つのサイトで共通管理

②サイトをそれぞれ別管理

③ハイブリッド型

主に②と③の手法に有効なプラグインとなっております。

ウェブサイト複製機能

翻訳元のウェブサイトから、配下のブログまでを多言語サイト用に複製を行うことができる機能
（Movable Typeではブログしか複製はできません。）

複製先はブログ単位で選んだり、カスタムフィールドやカテゴリにも対応。

一括翻訳機能

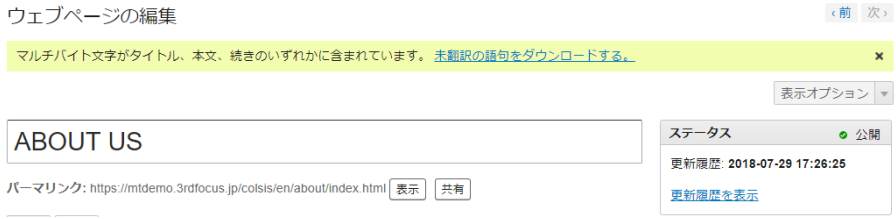
一覧画面からGoogle Cloud Translation APIを利用して一括して翻訳が可能。

ページ個別やブログ記事などでExcelを使って一括で翻訳も可能。

対訳プレビュー機能

翻訳元サイトと比較をしながら対訳プレビューを表示することが可能。

その他の機能



日本語抽出機能

ブログの設定画面から日本語が残っているかどうかを抽出できます。Excelでダウンロードしたり、記事一覧で確認することができます。

新規記事 / ページの複製機能

翻訳元サイトで新規記事/ページを作成したときに複製ボタンを押すと翻訳先に複製されます。 今あるページだけではなく、リリース後の運用にも適しています。

その他機能

共通辞書機能

人物や会社名等を事前に登録をして、翻訳時にそちらを優先することが可能

事例：にぎわいネット津島

「津島“にぎわい”創出プロジェクト」の情報発信サイトである「にぎわいネット津島ウェブサイト」の多言語化にMT Translatorが導入されました。日本語サイトをベースに英語、中国語(簡体)、中国語(繁体)、韓国語に対応。

エスケイワード社と協同で開発。

製品価格やMovable Type7への対応など

価格

95,000円(税別)

年度に最新バージョンのダウンロードとメールによるテクニカルサポートが受けたい場合は、年間サポートライセンスとして、40,000円(税別)がかかります。

導入サポート

100,000円～(税別)

ヒアリングを元にお見積させていただきます。

動作環境

- Movable Type 6.2 / 6.3
- Movable Typeクラウド版
- Movable Type for AWS

※Movable Type7対応は今冬対応予定です。

合わせてMovable Typeの開発や導入作業なども
お気軽にご相談してください！

まとめ

まとめ

- サイト設計方法を知って、どのように構築するかをあらかじめ決めておく。
- 制作にあたってのプロジェクトフローを整備する必要がある。
- 多言語制作には是非 MT Transatorを利用ください！

おわり

ご静聴ありがとうございました！